☆主の降誕[夜半](12月25日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（イザヤの預言 9 章 1-3、5-6 節）

闇の中を歩む民は、大いなる光を見
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。
あなたは深い喜びと大きな楽しみをお与えになり
人々は御前に喜び祝った。刈り入れの時を祝うように
戦利品を分け合って楽しむように。
彼らの負う軛、肩を打つ杖、虐げる者の鞭を
あなたはミディアンの日のように折ってくださった。
ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。
ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。
権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神
永遠の父、平和の君」と唱えられる。
ダビデの王座とその王国に権威は増し平和は絶えることがない。
王国は正義と恵みの業によって今もそしてとこしえに、
立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。

第二朗読（使徒パウロのテトスへの手紙 2章11～14節）

愛する者よ、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。
その恵みは、わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、
思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え、また、祝福に満ちた希望、
すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの
栄光の現れを待ち望むように教えています。
キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちを
あらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして
清めるためだったのです。

福音朗読（ルカよる福音書　2章　1～14節）

　そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。
　ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。
ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。
　その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。
恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
この方こそ主メシアである。
あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」
すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。
「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　主のご降誕おめでとうございます。今夜の朗読はどれも救い主イエスの誕生を荘厳に伝えています。子どもの誕生はどの家庭にとっても幸いなものですが、イエスの誕生は当時の人々にとって、預言者によって伝えられてはいたもののその現れは全く静かなものでした。そう、静かに誕生されたのです。地上では静かな夜でした。しかし天においては大騒ぎの、そして驚きと喜びに満ちたものでした。羊飼いたちにイエスの誕生を知らせた天使の大

群は喜びに打ち震えながら神の偉大な決断計画を賛美して歌ったのです。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心にかなう人にあれ」と。さあ私たちも歌いましょう。神の御業の不思議、人類を思う父なる神のみ心を。

第一朗読（イザヤの預言 9 章 1-3、5-6 節）

「闇の中を歩く民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に光りが輝いた」。まさに現代社会の現状に一条の光でなく、強烈な光を放つ方が現れたのです。現代社会は欲望にまみれ、暴力、搾取、殺戮、圧制。どのような言葉を使ってもあらわせないような現状になっています。私たちもその中の一人なのです。その私たちを救うことがお出来になる方はただ一人の幼子イエスなのです。「ひとりの嬰児が私たちのために生まれた。」そして、その治める王国は今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げると」。力強い言葉です。

第二朗読（使徒パウロのテトスへの手紙 2章11～14節）

パウロは「すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れた」と述べてイエスの生涯がまさに救い主の生涯であったことを指摘しています。そしてパウロはこの救いのメッセージが一人ユダヤ人たちのためでなく、全人類の救いのメッセージであることを告げているのです。

福音朗読（ルカよる福音書 2章 1～14節）

皆さんの良く知っているイエスの誕生を告げる福音の個所です。当時の状況はまさに人口調査のための人々の大移動の時期でした。自分たちの平穏な生活から離れて、日々困難に出会う生活だったのです。人びとのために救い主を遣わされる神は人々の困難な状況を知らなかったわけではないでしょうが。私たちにはわからない神のご計画だったのです。もしかしたら一刻を争う時期であったのかもしれません。人類の救いにとっての差し迫った時期であったのでしょうか。無い々尽くしの中でイエスはお生まれになりま

した。今の世界は平和がなく、悪の暴走を止める有効な手立てもなく、窮地に陥っています。このような状況の中で私たちは主イエスの言葉を信じて生きていくのです。「あなたがしてほしいことを他の人にもしてあげなさい」。そこから平和が訪れるのです。

ナザレのあるホテルの壁画（2018 年）

P.S.

クリスマスおめでとうございます。聖家族として生活された 30 数年間、人類のあらゆる困難、苦しみ悲しみそして喜びを体験されたことでしょう。それが宣教活動の中に現れています。私たちもイエスのようにこの世の艱難辛苦を味わいながら宣教する道を選んでいきましょう。世界に一刻も早い平和が訪れますように祈ります。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光